



安城特別支援学校の1年

将来への授業 ①

安城市の安城特別支援学校 中学部で一月後半、一週間集中して作業学習に取り組む「校内実習」を取材した。通常は週二回、二時間の「作業学習」の授業で、

「分らないことは自分から先生に聞く。最後まで頑張る」を目標に掲げた辻村朋睦さん(左)は、丁寧な編み目で次々に仕上げた。

アクリルたわしを編んだり、牛乳パックを使った紙すきをしたり、チラシで紙箱を作ったりする。校内実習中は一六時間目の全てを「作業」に充てる。

高等部の校内実習は、就職をイメージした実践的な授業だが、中学部では「集めてのが狙い」と教務主任鈴木雅世教諭は説明する。

作業学習で意識高める



校内実習で黙々と毛糸を編む生徒ら。いずれも安城市の安城特別支援学校で

紙すきをする女子生徒ら

を説明する際の材料になる。

一般企業への就職のほか、就労支援施設や福祉施設など進路はさまざまだ。

「自分が何に困っているかを周囲の人に説明し、『手伝ってください』と言えるようにしたい」と高等部進路担当の加藤昌子教諭。生徒たちが豊かな人生を歩めるように。児童、生徒たちを見守る教員たちの温かく、そして熱いまなざしは小、中学部時代から切れ目なく続く。

◇ (四方さつき)

久根教諭は「良い製品を作ろうね」と生徒たちに声を掛けた。

野が見えやすい」と言っ。細かな作業に向いているか、集中力があるのか、飽きっぽいのか。教員の少しいか。卒業後に進んだ事業の配慮で、取り組む姿勢が

所などに生徒の個性や能力

安城特別支援学校高等部の就職に向けた取り組みを一年間、取材してきました。いよいよ最後となる三月。卒業の日を迎える生徒や教員らに一年間の思いを聞きます。